みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

比較文化論：大項目別報告：芸術 5200

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船曳, 建夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003691

芸　　術　5200

船　曳　建　夫*

1. 概観　　2. 分布の意味と問題提起

1. 概　　観

ここでは主としてこの大項目中にみられる，二つの特徴的な分布型を示す小項目について説明をおこなう。しかし，そのまえに，そこでは取りあげない他の小項目について一わたりふれておく。

皮張り太鼓（5203），フルート（横笛）（5206），たて笛（5207），口琴（5212），鋸歯紋（5219）はその分布がほぼ東南アジア・オセアニア全域にわたってひろがっており，地域的な偏りがみられない。二重らせん（5217），切線円（5218），らでん（5220）は，その例数が少ないとともに，ある地域に集まって出現しており，地域による特徴的な要素であると考える。

ブルローラー（5201）はよく知られているように，秘儀的結社との結びつきが強い。その分布が東南アジア大陸部および島嶼部の内陸，そしてニューギニア，メラネシア，ポリネシア，オーストラリア，という領域に限られているのはうなずける。

さて，のこされた小項目と，そこにみられる分布の特徴の型についてのべる。二つの型のうち，第1のそれは（X型とよぶ），銅鼓（現代における使用）（5205），笙（5209），シロフォン（5211），絃楽器（5213），足を組んだ座像（仏像をふくむ）（5215）という要素の分布にみられる。それは，中国南部を中心にもつさまざまな大きさの同心円状の分布であり，ある場合にはその分布の境界は東南アジア大陸部にとどまり，またある場合は東南アジア島嶼部におよぶが，「絃楽器」をのぞくと，オセアニア地域に達するものはない（図1参照）。個別にみていくと「銅鼓」の最東端は小スンダ列島であり，「笙」は Iban が島嶼部唯一の例であり，また，「シロフォン」と「足を組んだ座像」も小スンダ列島までのびているだけである。弦楽器は，その存在

* 東京大学教養学部

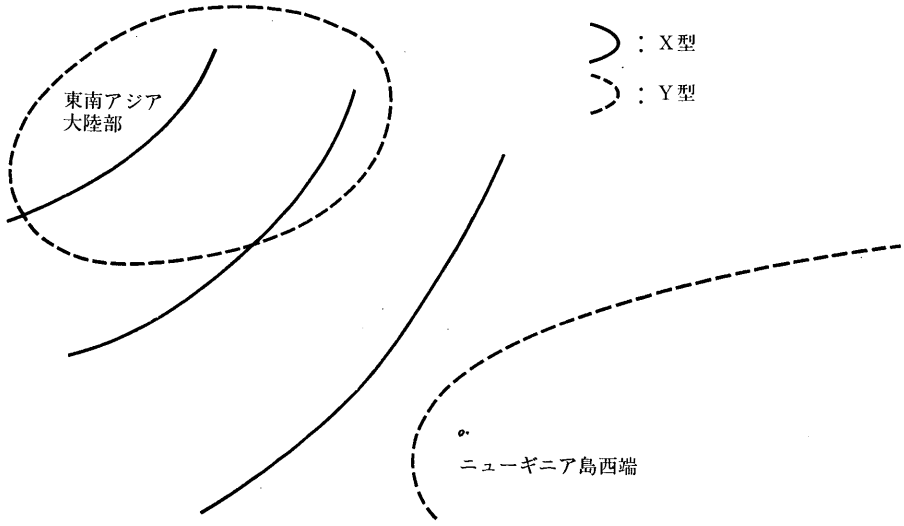

図1　「芸術」の二つの特徴的な分布

がオセアニアに散見されるが，その分布の63民族例中わずか5例にとどまる。またマダガスカルにおいては，この5要素中，「絃楽器」は6民族において認められるが，のこりは「シロフォン」が1民族においてみられるだけで，いわばこれらの要素の存在がひじょうに稀薄であることにおいてオセアニア各諸島と同じ状況にある。

第2の型（Y型）にふくまれる要素は，割目太鼓（5202），パンパイプ（5208），ホラ貝（5210），仮面舞踏（5214），蹲踞人像（5216）である。これらの要素は東南アジア大陸部とオセアニアの二つにわかれて出現している。そして，その二つの分布域の間の東南アジア島嶼部には分布がみられないか，またはひじょうに薄い（図1参照）。

それらの要素を個別的にみていくと，「割目太鼓」の分布は圧倒的にメラネシアに多く，東南アジア島嶼部にもみられるがその数は少なく，一方遠く離れた東南アジア大陸部の山地にはかなり存在していることが興味深い。「パンパイプ」も同様であって，図1のY型の模式図にあるように，中央部の欠如と，分布が両端にわかれていることが顕著にみられる。「ホラ貝」も「パンパイプ」と類似した分布であり，この分布域の分離は興味深い。そして両者が，東南アジア島嶼部では「パンパイプ」が台湾とフィリピン北部にみられる以外はともにスラウェシ島に存在する，ということも強い一致として目を引く。「仮面舞踏」は，前の「割目太鼓」と同じような分布を示す。ただ，オセアニアではメラネシアにおいてのみ見られ，ポリネシア，ミクロネシアに「仮面舞踏」がない，ということはあらためて考えさせられることがらである。最後

の「蹲踞人像」もY型の分布の特色をはっきり示している。東南アジア島嶼部には存在の報告がなく，分布域は東と西に離れて存在する。

2. 分布の意味と問題提起

以上，1. で概観した事実からいくつかの意味をよむことを試み，あわせて問題を提起する。

X型の分布はまず中国，もしくはインドという大文明の影響圏であることをあらわすと考えられる。「銅鼓」をはじめとし，「笙」，「シロフォン」，「絃楽器」，「足を組んだ座像」はいずれも高い文明の産物がうみだしたもので，同心円状の分布になることは当然といえよう。しかし「絃楽器」の場合，オセアニアにも6民族からその存在が報告されているのは，独立に発生したことも考えられる。またマダガスカルでは検討した8民族中，6民族が絃楽器を持っている，ということも独立の発生を考える必要があるだろう。いずれに帰着するにせよ，ここからは，個別の細かい類型の比較の問題になる。また，同心円状の分布がオセアニア地域には決して達していない，ということは，東南アジアとオセアニアの連続と不連続を論ずるときには重要な参照点となるであろう。

第2の型，Y型の分布から指摘できることはつぎの2点である。一つは，東南アジア大陸部の内陸地域と，オセアニア地域のうちメラネシアとに，文化的に共通の要素がみられることである。この2地域の共通性として，「割目太鼓」や「パンパイプ」といった物質文化の要素もさることながら，「仮面舞踏」といった，人々の総合的活動といったものがみられることはこの2地域のあるレベルでの類縁性のつよい証拠と言えよう。その意味で，この文中のはじめにとりあげた「ブルローラー」もその秘儀的結社との結びつきから，同様に，この2地域のなんらかの関連をつよく指示する文化要素と考えることができよう。また，この2地域の共通性を考えるにあたっては，大項目「集落・地域組織（3400）」で問題として出された東南アジア大陸部から，マレー半島をとびこして，スマトラ，ジャワ，小スンダ列島とつらなり，メラネシア，ポリネシアへと続く分布域（A型とよんだ）を考察にくわえることが意味をもってくるだろう。

Y型から指摘できるもう一つの点は，文化要素の分布域として，東南アジア大陸部と台湾，フィリピン北部がひとまとまりの地域として地図上にうかんでくることである。これも大項目「集落・地域組織」のA型とよんだ分布地域の一部と適合する。

以上X型の二つの点，またY型の文明からの伝播等のことがらは，すでに指摘され論じられていることであるが，この「芸術」の大項目に対象を限定したうえでも提起し得る問題としてここにのべた。